

「三功」に環境相奨励賞

津の廃棄物処理会社 食物残さのループ化で

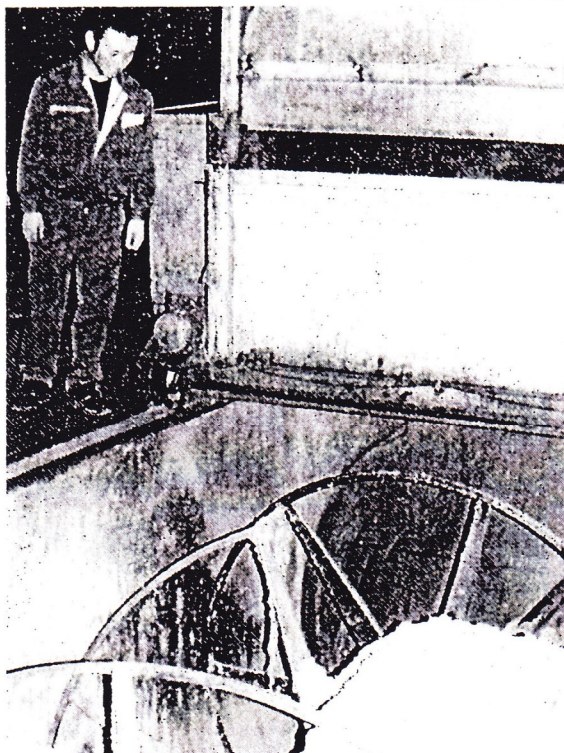
食物残さのリサイクルループ化に成功した津市久居明神町の廃棄物処理会社「三功」(片野功之輔代表取締役)がこのほど、食品リサイクル推進環境大臣賞の奨励賞を受賞した。同社取締役専務の片野宣之さん

「三功」は「ループ化だけでなく、これまでのさまざまな取り組みが認められた」と喜びをかみしめた。

地元スーパーから排出された食品廃棄物を、三カ月以上熟成させて堆肥化。「生ごみ堆肥」を使って農

作物を地元農家と共に生産し、食品残さの排出元であるスーパーで販売する仕組みを構築した。

廃棄物処理会社の三功が食物残さのリサイクルに着手したのは十五年以上前。毎年大みそかにスーパーか



生ごみ堆肥の調整具合を見る三功の片野専務＝津市戸木町の同社第一リサイクルセンターで

ら大量に排出されるおせち料理を見るたびに「もったいない。何とか利用できないか」と考え、生ごみの堆肥化に取り組み始めた。

当初は試行錯誤の連続だったが、有識者の知恵も借りてみたが、二年近く失敗が続いた。そんな中で作った生ごみ堆肥を入れて一年ほど放置してあった箱を片付けようとしたところ、中からカブトムシの幼虫がたくさん出てきて「これだ」。熟成期間を変更するなどして堆肥化にめどを立てた。

ただ、農作物を生産する際に生ごみ堆肥を使用することに農家の抵抗感は強く「ごみを畑にまくのか」と冷やかされる始末だったという。それでも自社工場内でトマトを育てて実績を積み、少しずつ理解を得ていった。地元農家十三軒と生産グループ「酵素の里」を

立ち上げ、軌道に乗せた。

直売所での販売が人気を呼び、生ごみ堆肥で育った農産物が地域のスーパー店頭にも並ぶように。宣之さんは「食物から食物を作る信用感を与えられたのは」と話す。現在、青森から佐賀まで全国五カ所でノウハウを伝授しているという。

食品リサイクル推進環境大臣賞は平成十九年度創設。食品循環資源の再生利用の取り組みを促し、普及拡大するのが狙いだ。本年度は全国二十二件の応募があり、最優秀賞一件、優秀賞二件、奨励賞五件が選ばれた。

(岡)